

(ア) 高価値農産物の生産技術普及

果樹・野菜栽培技術の普及



10月下旬、シズリ郡農業開発事務所技術者と協働で、低中地エリアにおいて（標高600～1,000m）ブロッコリーやカリフラワーなど、野菜の栽培技術研修を実施

講義内容のポイントをノートに書き留める参加者



実習で準備した苗畑に種を蒔く参加者



地域に自生するハーブと家畜の尿を用いた有機農業作りの実習



11月、高地エリア（標高1,500～1,850m）において灌漑水を活用して、温州みかん苗木の間に寒冷品種野菜苗の移植が行われ、アグロフォレストリーモデルがスタート



12月、高地エリアのマガール族住民が、灌漑による水撒きを行いながら、カリフラワーを栽培している農地



11月下旬、研修に備えて、自発的に3個のハウス建設を進める住民



積極的に新しい野菜栽培を開始するタマン族の女性



9月、カブレ郡を訪問し、先行農家と温州みかん栽培について情報交換する参加者



12、月既存のジュナールの栽培技術改善について学ぶ中高地エリア（標高約1,400m）の住民（ハユ族コミュニティ）

家畜飼育・ミルク生産技術の支援



10月下旬、獣医務官によるサイレージの栄養価等に関する講義



5カ所の居住エリアを訪問し、各エリアでサイレージ作りの実習を実施



12月、ミルク協同組合編成の実現可能性について現状の販売ルートとニーズについて住民にインタビュー



乳脂肪率を測定する仲買人と結果を待つ住民、毎朝、ミルクを仲買人の所まで運ぶ手伝いをする子どもが多い

(イ) 農業生産環境の保全と強化

土壌保全技術の普及



10月下旬、モデル農家と共にトライアルで植付けを行った4種の飼料作物の中から効果の高い作物を選定、ネピアグラスが地域に適していることが特定された



11月、モデル農家によって生産と野菜栽培への施肥が進められているミミズ堆肥



11月、篤農家によって、生産利用が開始された家畜の尿を活用した液肥



液肥によって、ハウス栽培されているトマトの発育状況が良く、茎も太く丈夫に育っていることが確認された

小規模灌漑の設置



9月下旬、小規模自然流下式灌漑を設置する9区（タマン族コミュニティ）において、住民と共にデザインや作業工程を確認するワークショップを実施



4区（タマン族コミュニティ）、貯水池整備エリア面積を住民と共に測定



11月、既に貯水タンク設置箇所の掘削作業が完了したエリア（9区アル・コラ集落）



12月、灌漑設置によって飲用水確保の負担も軽減されることより、貯水タンク設置箇所の掘削作業には女性が積極的に参加（9区ガネシュ・シュタン集落）



9月中旬、昨年度に灌漑を設置した高地エリア（標高1,500~1,850m）で運営管理に関するワークショップを開催（8区マガール族コミュニティ）



貯水タンクごとに管理委員会を編成（6区マガール族コミュニティ）